

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2774000992		
法人名	特定非営利活動法人 オリーブの園		
事業所名	グループホームひより		
所在地	大阪府豊中市原田元町2-6-26		
自己評価作成日	平成 29年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成 29年 3月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>グループホームひよりは、入居から看取りまでの安心を医療連携で支えています。</li> <li>グループホームひよりの安心は、環境とケアの専門性に支えられています。</li> <li>グループホームひよりの質の高いケアの専門性は、人材育成の継続で支えられています。</li> <li>グループホームひよりは回想法を取り入れた和空間をデザインしています。</li> <li>グループホームひよりは地域に貢献し、認知症の啓発・予防にも力を注いでいます。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JivvosvoCd=2774000992-008&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JivvosvoCd=2774000992-008&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 2月 28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域に貢献しているNPO法人オリーブの園が運営する2ユニットのグループホームです。同法人は介護予防事業の「街かどデイハウス」や音楽療法室等を運営し、人材育成や認知症の啓発・予防にも力を注ぎ、多くのボランティアに支えられながら地域支援活動を進めています。ホームは住宅街にあり、多目的に活用できる庭園では利用者がバーベキューやそうめん流しを楽しんでいます。古民家風の落ち着いた環境で、利用者は穏やかに自分らしい暮らしをしています。年間を通じて花や紅葉等を楽しめるよう外出支援にも力を入れ、利用者の経験を活かして餅つきや味噌作りにも取り組んでいます。管理者はクラブ活動等を通じて豊かな人材育成を行い、職員は利用者寄り添い心安らぐ支援をしています。セラピー犬を育て、音楽療法を取り入れて、より専門的なアプローチを行い利用者の力を引き出す取り組みをしています。舞踊祭りで利用者が日本舞踊を披露し、重度化した利用者が職員の支援を受けて指で描いた絵が作品展で高く評価されるなどの効果も見られます。24時間365日の医療連携支援を行い、看取り支援を充実するなど、地域や家族と連携して質の高いサービスを提供しているホームです。</p>
---

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念については職員憲章9か条があり、それらの具体を4つの心得として毎朝の朝礼で唱和している。また憲章については名札の裏にも携帯し常に見ることが出来るようにしている。</p> <p>毎年の事業所の目標も施設内に分かりやすく掲げている。</p>	<p>「1. 人間と人間社会を見つめ、その空間と時間の歩みをデザインしていきます。2. 多様な文化や価値を認め合い、個々の生きるステージを大切にしていきます。3. 共生社会の中で自立支援のあり方や、そのプロセスを見つめていきます。」を理念とし、ホーム内に掲示して共有しています。理念は職員憲章9か条として具体化し、職員は常に携帯して実践しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	古民家の遊休活用等で地域の方と一緒に季節行事を行ったり、交流の機会を設けている。又、地域からの出前講座等のオファーもあり、職員のクラブ活動メンバー等が地域に貢献している。	事業所向かいにある、校区福祉委員会が運営する古民家カフェや朝市の買い物に出向く等、近隣との交流は日常的に行っています。地域で行う公園の清掃や防災訓練等にも参加し、地域との交流を深めています。ホーム入口に「介護・認知症の相談はお気軽にどうぞ」の看板を掲げ、近隣や通りがかりの人からの相談を受けています。職員は「認知症サポーター養成講座」の出前を行い、シルバーカレッジ、銀行、会社等に出向き、年間200人以上の育成をするなど、地域貢献に努めています。職員のクラブ活動の一つである「ノギリクラブ」は音楽療法活動の一環として地域に出前コンサートを行い、好評を得ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	厚生労働省が推進しているキャラバン・メイト事業の「認知症サポーター養成講座」を地域展開させて、多くの方に認知症の知識や学習の機会を提供している。昨年は老人大学や銀行、保険会社等にも出向き、200人以上に出前講座を提供した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>施設内で提供している柔食や流動食の試食会や虐待予防に関する学習・パーソナルソングを活用したレクリエーション・高齢者の暮らし方の社会資源の色々等をテーマに行ったが、グループホームの報告だけでなく、地域からの参加者にとっては良い学習の機会にもなるとして大変好評を頂いている。</p>	<p>運営推進会議は2か月に1回、年6回を基本として開催し、メンバー構成は利用者・家族、地域住民代表、事業に知見を有する者、地域包括支援センター職員、ホーム職員等としています。最近の会議では、ホームの運営状況と概要報告(定員、入居者数、事故なし、介護ソフトの更新、健康管理、定期健康診断、介護・入居相談、地域交流、スライドショーによる活動紹介等)、厚生労働省の地域支援事業について情報提供、地域との意見情報交換会等を行い、意見交換しています。参加者の発言は多種多様で、出された意見や提案等は利用者のサービス向上に活かしています。運営推進会議開催モデル施設として出発した経過もあり、会議運営は常に他の事業所の手本となるよう意識して取り組んでいます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昨年に引き続き、豊中市と介護を活用した就労準備支援事業に協働で取り組んでいる。又、介護予防事業の「街かどデイハウス事業」も法人として受託し、認知症啓発、人材育成、介護予防として連携している。	市の担当者とは常に連携を取り、情報交換をしながら協力関係を深めています。また、法人として「介護を活用した就労準備支援事業」に、市と協働で取り組んでいます。さらに、市から介護予防事業の「街かどデイハウス事業」を受託し、人材育成、認知症啓発、介護相談等々、市と連携して取り組んでいます。	管理者は市担当課との協力関係を築いており、今後は音楽療法等を活かした認知症支援活動や市が運営する「豊中駅構内ステーション事業」における認知症予防、啓発、相談活動に、新たなテーマを用意して引き続き取り組む予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については事業所内での解決だけではなく、安全や安心とも両立できる様に、必要時は医療連携・家人の協力・地域資源活用等のネットワークで解決してゆく方針であり、一切の身体拘束は行わない。	運営規程に「身体拘束等の禁止」を明記し、身体拘束排除マニュアルを活用して身体拘束を行わないケアを徹底しています。玄関や出入り口には施錠せず、必要な出入り口には鳴り物を付けて注意喚起し、利用者の自由と安全を守る対応をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がりがやすい不適切なケアについては、スタッフ全員を対象に社内研修を行い、人権・倫理・マナー・ホスピタリティーの気持ちを大切に出来る様な学習の機会も提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族のスタイルの変化や身内がない等、成年後見制度を必要とする方もおられ、ケース事例を通して学ぶ機会を設けている。介護福祉士は既に学んではいるものの、パンフレット等を渡しているが、最近リビングウィルのサポートも行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約更新時には家族会での説明や個別の情報交換会を開き、契約についての説明責任を果たせるよう努めている。利用者やご家族が持つ不安要因に対して、こちらからの説明だけでなく、不安に対しては十分に聴く姿勢や分かりやすさに重点を置き、納得を頂ける様に信頼関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の意見や要望に対しては、介護計画書の承認を得る際に、記入欄に意見・要望等自由に書いて頂ける様になっている。年1回は家族交流会を開催すると共に、年1～2回ご家族との電話での意見交換会を行い、運営等に反映させるようにしている。利用者さんの意見や要望はホーム内に自治会があり、それぞれの希望する行事やレク、食事等は出来るだけ介護計画に反映させている。</p>	<p>利用者の希望は利用者自治会で「行きたいところ」「食べたい物」「したい事」等を出してもらい、できることはすぐに日々の支援の中で行っています。さらに介護計画に反映させて利用者の日常支援に活かしています。家族来訪時には職員から声かけをして、意見や要望を聞いています。管理者は年に数回、家族へ電話をして、意見や要望、家族の状況等を、ゆっくり時間をかけて聞くようにしています。家族交流会を年に1回開催して、家族の意見や要望を確認しホーム運営に活かしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では各個人の意見や提案を聴く機会を設けている。又、施設内ツアーでは気付きを促す様にチェックを行い改善に繋げている。職員の福利厚生に関しては、人材育成を中心に充実させている。	管理者は日常的に職員と対話し課題を共有しています。月1回の会議では一人ひとりの意見や提案が出やすいように配慮し、隔月に研修を取り入れて育成に尽力しています。管理者は職員と「施設内ツアー」と称する点検活動を行うことで、職員の気付きを促し改善につなげています。管理者は職員が自己点検票を記載して、自らの課題に気付くように導いています。職員との交換ノートを通じて相互に理解を深めながら、職員が掲げた目標等が実現できるように、細やかな助言や提案をしています。管理者は職員の意欲や自主性を伸ばすように努め、人として心豊かに成長することで介護技術も向上すると考え、職員のクラブ活動等を支援しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材育成については、資格取得が出来るように福利厚生を充実させている。アンケートやレポート、面接等で環境改善提案が出来る機会を設けている。又、労務士等の専門職のアドバイスを受け入れる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ストレスマネジメントやセルフケアを行なえる力を養える様に、感受性を高める研修や、自信を持ちながら働ける内・外の研修、又、管理者との交換ノート等で気付く力を養える様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	拡大運営推進会議等でグループホームの抱える課題を出し合える機会をつくる事が重要と思えるが、この提案に対して行政側の条例等で拒否されている状況である。同業者とは介護保険事業者連絡会等での交流はあるが、運営推進会議の連携を広げて行くことが出来ないのは残念である。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は即 暫定計画を立案し、特にリロケーションダメージに対しては不安が無い様にサポートしながらラポール形成を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	引っ越しサポートや、福祉ケースに繋ぐ様な経済的支援等も行っている。病院から来られる方は送迎なども引き受けている。又、テレビ・タンス・ベット等の生活用品も必要な方には提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	独居であったり家族が遠方で支援が必要な方もあり、フォーマルやインフォーマル資源を活用しながら入居に対しての引っ越しや、入居後の片づけ等の準備をサポートしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の強みを活用できるストレングスケアを計画しながら(できる事に注目)も、時々柔軟で臨機応変な中での、ラポール形成を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の選択を尊重しながら、本人と家族の絆の改善を図る。 家人との関係の修復は専門的ケアの目的の一つとなる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b>            本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>グループホームに入居しても、友人等との関係が切れないように「リスクマネジメントを行いながら、ルールやマナーを守りながら」支援を行う。</p>	<p>入居時には、利用者がこれまで大切にしてきた人、馴染みの場所や思い出の地域等を聞き、記録に残して支援に活かしています。土いじりが好きな利用者にとマトづくりをしてもらう、部屋に観葉植物を置いて楽しんでもらう等の支援をしています。文化祭では、家族が知らなかった利用者の特技や作品を披露して、利用者が文化的な生活を楽しんでいる様子を家族が再確認する機会になっています。大切な人への手紙や礼状、年賀状の代筆や電話の取次ぎ等、職員は馴染みの関係が途切れないよう支援しています。馴染みの美容院や教会へ行く利用者もいますが、年数が経つごとに商店の移り変わりがあり、馴染みの場所も少なくなっていることから、地域へ定着したホームとして新しい関係も構築しています。</p>	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b>            利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>一般的に決められた対応だけでなく、汎用的にグループマッチングをすすめている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルケアの中にグリーフケアを含めている。 長期入院の契約切れに対しては再入居出来る様に、又、在宅に戻れる様な取り組み等も行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症があり、思いや意向の把握が難しい状況であっても、利用者間の自治会等で一人々の意向の把握の機会を提供すると共に、その場々の意向を尊重できる専門的接遇に努力し、アセスメントしながらニーズの把握に努めている。	利用者自治会を開催して一人ひとりの思いや希望を出してもらい、ホーム運営に活かしています。最近では利用者の提案から、本棚に観葉植物を置いて楽しめるようにしています。意見が出にくい場合には日常の会話の中で職員が個別に意向を確認したり、しぐさや表情、行動から意向を確認したりしています。舞踊経験のある利用者には日本舞踊ができるようクラブ活動を勧め、多くの観客を迎える舞台上で自己表現ができるよう支援しています。重度化した利用者にも絵が描けるように支援し、利用者が絵具を選んで指で描いた絵が展示会で素晴らしい作品として評価されるなど、利用者の思いに沿った支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	方言、食事の味付け、和や洋の生活習慣等も回想法に活用し、パーソンセンタードケアとして安心して生活できるようにバックヒストリーを大切に、エンパワメントサポートに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のオーダーメイドの暮らし方に合わせる為には、一人々のフィジカルアセスメントが必要であり、日々のバイタルのモニタリングを始め、ADLの状況等を含め医療連携会議等でトータルに見てゆくことを実践している。体調不良については「いつもと何か変」という事に気付ける力が必要となる。常に客観的観察が出来、即報告や連絡や相談が出来るように看護師との連携を密にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>チームで情報の共有として活用出来るインデックス方式の採用等、日々変わる状況に対応している。介護計画は毎月作成し、ご家族にも分かりやすい生活プランニングを立てている。計画に伴うモニタリングはアセスメントデータとして医療職との情報の共有に役立っている。</p>	<p>介護計画書は利用者・家族の希望や意向を反映して作成し、連携する医師、看護師、薬剤師、職員の意見等も反映させて、家族の了承を得ています。長期目標、短期目標についてはケアプラン実施記録を確認して、月に1回モニタリングしています。介護計画は毎月作成し、家族に送付し共有しています。入居面談時にはそれまでの暮らしぶりや趣味、嗜好等できるだけ多くの内容を聞き取り、アセスメントシートに残して支援に活かしています。</p>	<p>ホームでは電子カルテを活用することで、利用者の日常支援情報をスピーディに共有し、医療連携会議等での効果的な活用を進めています。最近、システムに不具合が生じ、電子カルテの変更を行ったことで、新システムに慣れるまでに手間がかかる状況になっています。職員間のチームワークを高め、新システムに適応するという課題に取り組むことで、電子カルテの活用を継続していく予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>電子カルテを活用した記録を行っている。利点としては、バイタル・体重・排泄・食事等の情報がモニタリングされ、データ化されて実践に活用しやすい。又、データはミーティング等や医療連携会議においても共有されやすい。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	オリーブの園の特色とする音楽療法を活用した看取りや音楽葬にニーズが高まっている。 ある時は実習施設となり、又ある時はホスピスとなったり、地域の集会になったりと多機能であり、柔軟なサービス提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	校区の敬老の集いでは、小学校の体育館で職員のクラブ活動の発表を行ったり、校区福祉委員会が運営の古民家活用のカフェにも参加している。又、地域の遊休資源を活用して文化祭を行なう等、地域資源の活用を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間365日いつでも往診可能な、往診専門の医療機関と提携しており、月2回の定期往診により、居宅療養管理が出来るように支援している。又、かかりつけ医から医療連携医にスムーズに移行できるようにサポートし、耳鼻科や皮膚科等の専門医については入居前のかかりつけ医に引き続き受診出来るようサポートしている。	利用者・家族の希望に沿って、適切な医療が受けられるように支援しています。ホームでは往診専門医療機関と提携して24時間、365日の医療連携支援が受けられるようにしています。利用者は月2回の定期往診を受けています。耳鼻科や皮膚科、その他の専門医療については、これまでのかかりつけ医を継続受診できるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p><b>○看護職との協働</b>                      介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携施設として常勤の看護師が居る。介護士は健康上の気づきを看護師に報告し、指示を受けたり、必要に応じてスーパーバイズを依頼する。看護師は医師、薬剤師と情報を共有し往診等の調整を行い、昨年からはケアマネージャーも参加し、医療連携会議を定期的で開催している。又、看護師は職員の健康管理やホーム内の保健、衛生も指導管理している。</p>		
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b>                      利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時グループホームから病院に対してのサマリーを提供しているが、更なる質の向上を目指してフォーマットの改善を行った。又、病院のMSWとも連絡調整している。特に生活保護の方も多く、個々に様々なサポートをしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医師のインフォームドコンセント時や必要時に支援出来る様に、法人としての重度化や終末期に向けた方針を決定し、同意書を交わせるように準備している。又、最近の様々な看取りの選択に対しても、オーダーメイドのサポートに努めている。</p>	<p>入居面談時にホームの終末期支援方針を説明し、重度化した場合には再度希望を確認して同意書を交わせるように準備し、家族、看護師、医師、職員で話し合いをしています。終末期には職員が看取りを行う体制を整え、利用者が安らげるように支援しています。希望があれば家族が宿泊できるように準備して、利用者との別れに悔いが残らないようにしています。ホームでは看取り支援を行うのが通例になっていますが、エンゼルケアや遺品整理については遺品整理士等、資格を持った職員が担当して、心を込めた対応をしています。お別れには利用者の楽しかった思い出等を写真集にして家族に提供しています。</p>	
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b></p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ほとんどの職員が消防署で救急・救命訓練を受講しており、市民救命サポーター・ステーションに認定されている。特に誤嚥に関しては急を要する為トレーニングを重ねている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p><b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害・地震を想定して自治会の防災訓練等にも参加し、地域との協力体制構築に努めている。又、数年前には地域のボランティアの方々に防災頭巾を作ってもらった等々の協力も頂いた。尚、万が一の水害にも備え、利用者・職員全員分の救命胴衣も設置、地震対策としての耐震補強工事や家具の転倒防止対策も行っており、防災時の対応マニュアルも作成している。又備蓄の食料や水等も定期的に交換している。今年は更にマニュアルの見直しも行う予定である。</p>	<p>消防署や地域自治会等と連携して、年に2回の防災避難訓練を実施しています。利用者は地域のボランティアに作ってもらった防災頭巾をかぶって避難訓練をしています。地域自治会の防災訓練にも参加して、地域との協力体制を築いています。ホームでは建物の耐震補強工事や家具の固定などを行い、スプリンクラーを設置して利用者の安全確保に努めています。さらに、水害に備えて利用者とスタッフ全員分の救命胴衣も確保しています。最近では水害を想定した避難経路を探索し、水害の際はホーム2階に避難することも検討しています。非常時の水や食料品、カセットコンロ等の備蓄品はリスト化して、賞味期限や在庫管理を徹底しています。防災時の対応マニュアルは水害や土砂災害に備えた内容を強化するよう現在見直しをしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現場においては慣れが生じやすく「常に自分に置き換えて考える力を養う」ことや「自分の感受性に敏感である事」を介護の専門性として自ら磨きを続け、自分の介護観の柱として人権や倫理が立てられるような研修や人材育成に取り組んでいる。又、スタッフだけでなく、面会時のご家族様のルールやマナーについても人権の侵害が無い様な啓発をしている。	管理者は利用者一人ひとりの意思を尊重し、利用者の思いに沿った支援ができるよう職員の育成に力を入れています。人権や倫理についての研修を行い、言葉かけや対応について利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した支援を徹底しています。さらに、面会時の家族にもルールやマナーについての依頼文を掲示し、人権やプライバシーについての啓発をしています。混乱した状態で入居した利用者も、ホームで数日過ごすことで落ち着きを取り戻し、周囲に馴染むことができるような支援をしています。個人情報保護についての法令遵守、秘密保持については職員の入職時に雇用契約を交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	生活の中には多くの自己選択があり、日常の中では多くの選択情報を提供している。利用者間の自治会等においては希望が聴ける有効な機会として捉え、ケアプランにも活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な環境の中にあるグループホームの特性を活かし、人や物・空間等の環境を大切に、その人の今迄の暮らしにも配慮しながら一人々のペースを支えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔で快適である事の上に、そのらしさを支えるお洒落などTPOに合わせて支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常は家庭的な食事を主としているが、非日常の行事食はバイキングパーティーとして楽しめるように、またお正月等は気分を新たに迎えられる様にテーブルセッティング等の環境を大切にしている。食事は、生活リハビリ、又食文化としても位置付けられており、利用者さんの力も活用している。	食事時間が近づくと、調理をする職員の動きや料理の匂い等、家庭と同じ食事準備風景があります。調理専門職員を中心に、新鮮な食材を選び、利用者の希望に沿った食事作りをしています。利用者は自分の得意なことで力を発揮し、年間に使用するみそ造りや餅つき、おやつ作り等にも取り組み、楽しんでいます。管理者は食と五感を大切に、四季折々の行事を取り入れて、豊富なメニュー、色彩豊かな盛り付け、食器類やテーブルセッティングにもこだわった「食を楽しむ」環境づくりをしています。利用者の希望に沿って外食に出かける支援もしています。職員の提案から、調理専門職員不在の場合や災害時に備えて、スチーム食を備蓄し万全を期しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分補給の目安は計画の中に入っており、不足する場合は食事形態や嗜好に配慮している。夏季や冬季はホーム全体の脱水対策を心掛けている。又、BMIの変動もモニタリングし、栄養バランスにも心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	認知症でうがいのできない方は、セルフケア計画で毎食後口腔の清潔や、インフルエンザ・誤嚥性肺炎の予防のため個人衛生としてマウスウォッシュを行っている。必要に応じて指定の訪問歯科医の受診も支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別支援計画に基づき、又、排泄サインやパターンリズムをつかみ、失敗に繋がらないような誘導等の個別支援をしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを確認し、個別支援計画に沿って声かけやトイレ誘導をしています。職員は利用者が自分でできることについては極力見守りながら、状況に合わせた支援をしています。利用者がトイレでの排泄ができるように支援し、オムツ類はできるだけ使わないよう心がけています。水分摂取量と排尿との関係を調整し、オリゴ糖やヨーグルト摂取等、食事の工夫をすることで、気持ち良く排尿・排便ができるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策は個人の適切な排便コントロールを計画している。水分や運動だけでなく、オリゴ糖やヨーグルト摂取等の食事の工夫や状況に応じた投薬のコントロールも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は清潔を保つだけでなく、心のホリデーやコミュニティ形成の場でもある。リラックス出来る入浴剤の工夫や菖蒲湯・ゆず湯等文化や季節を楽しんで頂いている。仲良く入浴できるような環境の提供に努め、グループミックス効果を計画している。	入浴については、利用者の希望に添った支援をしています。利用者は自らが希望した入浴スタイルに合わせて週2回～3回程度の入浴をしています。利用者は仲良く二人で入ったり、一人での入浴を楽しんだりしています。入浴剤を活用し、季節にはゆず湯や菖蒲湯を用意して、ゆっくり楽しみながらリラックスできるように支援しています。浴槽は複数の利用者が楽しめるように、広い湯船と洗い場があり、転倒予防も含め安全に配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホーム内はゆったりとして、ヒーリング音楽も提供している。居室は温度や湿度が管理されて快適に過ごせるように配慮されている。ベットは快適なリネンが整えられて、布団乾燥機を活用し暖かく休める環境を提供している。いつでも休息できる環境である。昼食後談話室ではコーヒーセラピー等も行われ、リラックスタイムを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p><b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方薬の薬ボックスへのセットは薬剤師に依頼している。服薬時は、顔・名前を2人で確認している。薬の知識についても副作用や留意点に至るまで学習を提供し、その冊子はいつでも見る事が出来るよう定位置に備えている。又、降圧剤、血糖降下剤等の服用者リストも定期的にチェックしており、入院時等の投薬情報としてお薬手帳も管理している。</p>		
48		<p><b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ホーム内の自治会やクラブ活動等もあり、自己実現としての発表会の場や機会も生きがい支援として行っている。ホーム内の個々の役割は生活リハビリとして日常の中に位置づけられているが、職員はおやつ作りや手作り料理の手ほどき等を受けている。それらが役割や生きがい支援ともなっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	校区福祉委員会主催の地域カフェには定期的に出かけ、昔懐かしい古民家を楽しんで頂いている。近くの公園に散歩に行く日常もあるが、外出行事は“自治会”により、利用者さんの希望や要望を聞き、梅・桜・バラ・菖蒲・紅葉観賞等々の季節のドライブを近くで楽しんで頂いている。	日常的には、近くの公園や周辺を散歩したり、ホーム向かいにある古民家で行われる校区福祉委員の行事に参加したりしています。また、同法人が介護予防事業の一環として運営する、隣接の「街かどデイハウス」へ出かけて、お茶を飲んだり繕い物を手伝ったりして、他者との交流を楽しんでいます。年間を通じての外出は、「出かけたかった事、したい事」等を利用者自治会で話し合っ、春の花見、イチゴ狩り、秋のお月見、紅葉見物等の希望を出してもらい、取り組んでいます。今年は新たに動物園にも出かけて楽しいひと時を過ごしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事時に家族さんにお土産を買う等、希望する方にはお小遣い程度であるが支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙、礼状の代筆や年賀状書き、又、家族からの電話の取次ぎも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切にし、ホーム全体が醸し出すレトロな雰囲気大切にしている。音楽や香り、花や緑、熱帯魚やセラピー犬等とのふれあいもリラックス感がある。ホーム内は季節に合わせてレイアウトも変更し、有機的な空間のホスピタリティを大切にしている。共有スペースだけでなく、各居室でも気の合った友人同士でお茶が飲める様に、等のサポートをしている。	ホームの門扉から玄関までの間は長いテラスの小道になっており、オリーブ等の木立、テーブルとイスを置いたくつろぎのスペース、草花を植えた多目的スペースがあり、バーベキューやそうめん流し等を楽しめるようにしています。門を入るとセラピー犬が出迎えてくれます。玄関には由緒ある古民家風の調度品、熱帯魚、観葉植物などがあり、心地よい香りに出迎られます。居間には大きなお雛様を飾り、利用者が季節を感じられるようにしています。廊下にはソファやイスを置き、DVDを鑑賞できるコーナーや喫茶コーナー等を設置し、利用者が好みの場所でくつろげるよう足元にはホットカーペットを用意しています。浴室やトイレは清潔で、利用者の安全を重視しています。加湿器を活用するなど空調にも配慮して居心地良く過ごせる共有空間にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>施設内においても個々の好みのリラックス空間はそれぞれであり、廊下にはDVD鑑賞の出来るコーナーやプロジェクターマッピングのコーナー、コーヒー館の喫茶コーナー等を工夫し、居場所づくりや仲間づくりに努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人のADLや回想にも工夫し、住み慣れた家具の使用や暖簾の活用でプライバシーへの配慮もしている。又、特に臭気や湿度の環境には工夫している。</p>	<p>居室には利用者のイメージに合わせてデザインしたボランティア手造りの暖簾をかけ、表札も分かりやすく工夫して自立を支援しています。利用者は居室に使い慣れた家具や仏壇、テレビ、写真等を配置して過ごしやすく工夫しています。備え付けのエアコンや空気清浄器、流し台が設置されており、収納庫にはボランティアに作ってもらった防災頭巾を置いて災害時に備えています。職員は利用者の状況に合わせて和室、洋室を選んでもらい、利用者の希望に沿って室内の整理整頓を支援しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の表示は言葉のセンテンスを短くし、さり気ない中にも分かりやすさを工夫している。見当識障害に配慮し、居室の表札の工夫、ADLに合わせたの洋室や和室の選択、それぞれの自立を促す為、表示やデザイン等分かりやすさを工夫し、さりげない家庭的な環境づくりにも努めている。		